

大学院の修了生を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

本日は私も修了生の為に、このように盛大な式を催していただき、まことにありがとうございます。本日この良き日を迎えるにあたり、安部理事長・安東学長をはじめ、諸先生方、並びにご関係の皆様には格別なご厚情を賜りましたことを、修了生一同、心からお礼申し上げます。

振り返りますと、私は2018年6月に、中国の大学を卒業後、日本語を勉強し、日本文化について多くのことを学びました。日々勉強していくなかで、ソーシャルワークについてより深く修学したいという気持ちが芽生え、二年前に長崎国際大学の大学院に入学しました。大学院でのこの2年間は、瞬く間に過ぎていきました。研究期間中は、いくつもの困難や理論と実践との両立の難しさを感じ、挫折しそうになることもありました。そのなかで諸先生方の指導を受け、人としてのかかわり方を学び、改めて大学のモットーである「いつも、人から。そして、心から。」を実感するとともにソーシャルワーク人材の重要性を再認識いたしました。

私どもの些細な変化を敏感に感じ取り、優しく、親身なご指導いただきました先生方、苦しい思いを共にわかちあい、励まし合い、一緒に過ごした大学院の同輩には心から感謝しております。

私どもは、長崎国際大学で学び、経験したことを活かし、広い視野を持って、研究で得た知識・技能を発揮し、お世話になった地域の皆様に貢献したいという思いを新たに、次のステージへと巣立ちます。本日までお見守りいただきありがとうございます。

最後になりますが、本日ご臨席賜りました皆様のますますのご健康とご多幸を、並びに長崎国際大学のさらなるご発展をお祈りしまして、感謝の言葉とさせていただきます。

令和四年 三月十二日

大学院修了生代表

人間社会学研究科 社会福祉学専攻

唐 潤中